■(古在)清水紫琴　　小説家，社会評論家。女性の自立唱えて登場，3人目の相手古在由直と熱烈な恋愛結婚し，断筆。
しみずしきん
明治維新・・1868＝　　備前国和気郡に生れる。漢学者清水貞幹・留以の三女。

化学工場を経営していた父のもとで，京都に育ち，
明治6年政変 1873＝ 5歳：

西南戦争・・1877＝ 9歳：

明治14年政変1881＝13歳：府立第二高等女学校を卒業し，

府立第一高等女学校小学師範諸礼科を卒業，進学先が無いため，家で読書して暮らすうち，
秩父事件・・1884＝16歳：代言士岡崎晴正と結婚，

帝国大学始・1886＝18歳：
国民之友始・1887＝19歳：*自由民権運動に挺身していた夫晴正らの{興和会}の演説会で，「女学校の設立を望む」と題しはじめて演説。その後も奈良県各地で活動。
帝国憲法発布1889＝21歳：_植木枝盛の{東洋之婦女}に序文を寄せ，植木枝盛・中江兆民・佐々城豊寿らと知り合った。そのころ夫の二重結婚が判明して離婚。景山(福田)英子と知り合い，女権拡張運動で活躍。
帝国議会始・1890＝22歳：*上京，{女学雑誌}に入社して女性編集主任，日本初のジャーナリストとなる。かたわら明治女学校で作文を教えながら，精力的に取材してルポ記事を載せ，優れた評論に加え随筆・小説など幅広く手がけ，
足尾鉱毒始・1891＝23歳：_{女学雑誌}に発表した自らの結婚から離婚に至る経緯を女性の自立ととらえた「こわれ指輪」で文壇に登場するが，父の病気のため休職して帰郷中，民権家大井憲太郎と恋愛。憲太郎の子を生むが，憲太郎は敬愛する同志景山英子の夫であることがわかり，ノイローゼとなって入退院を繰り返す。英子は憲太郎と離婚。この事件はジャーナリズムに興味本位にとり上げられて話題となる。復帰後，東大農科大学古在由直助教授と熱烈な恋愛をし，
大本教・・・1892＝24歳：_巌本夫妻の媒酌で結婚，
2男を生み，円満な家庭生活に入る。
日清戦争始・1894＝26歳：
日清戦争終・1895＝27歳：*由直がヨーロッパ留学に出発して姑の住む京都に移った年から，執筆活動を復活，以後，育児に追われながら，初めて紫琴の号を用いて寄稿を続け，「花園随筆」を{女学雑誌}{太陽}に連載し，
八幡製鉄始・1897＝29歳：_「心の鬼」を{文芸倶楽部}に発表，「二人娘」「誰が罪」を{世界之日本}に発表。
子規句歌革新1898＝30歳：_「したゆく水」を{文芸倶楽部}に，
Bushidou・・1899＝31歳：_「もつれ糸」を{万朝報}，被差別部落問題を取上げた先駆的作品「移民学園」を{文芸倶楽部}に発表するが，
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝32歳：_夫の帰国とともに，結婚時の約束を果たさざるを得なくなり，
田中正造直訴1901＝33歳：*「夏子の物思ひ」を最後に，小説の筆を絶った。以降は家庭の人となり，
日露戦争始・1904＝36歳：
日露戦争終・1905＝37歳：

明治天皇没・1912＝44歳：
大正政変・・1913＝45歳：

原敬首相暗殺1921＝53歳：
水平社結成・1922＝54歳：
関東大震災・1923＝55歳：関東大震災後の復興事業の一つ{愛の家}設立に協力したほかは，社会的な活動をせずに，

満州事変・・1931＝63歳：

国際連盟脱退1933＝65歳：_没した。
昭和58年次男の哲学者古在由重によって「清水紫琴全集」1巻が刊行された。

平凡社百科事典，「女たちの20世紀･100人」，「日本の女性」，